

平成 18 年 10 月 25 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U E X
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 押 本 俊 明
 (J A S D A Q コード・9 8 8 8)
 問 合 せ 先 経 営 企 画 部 長 ショウカセ タカシ 勝 賀 瀬 崇
 T E L (0 3) 5 4 6 0 - 6 5 0 0

平成 19 年 3 月 期 中 間 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想 と の 差 異 及 び
 通 期 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想 に 関 す る お 知 ら せ

平成 19 年 3 月 期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日) の 業 績 予 想 に つ い て 、 平 成 18 年 8 月 8 日 付 当 社 「 平 成 19 年 3 月 期 中 間 業 績 予 想 (連 結 ・ 個 別) 、 通 期 業 績 予 想 (連 結 ・ 個 別) 及 び 中 間 配 当 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ 」 に て 発 表 い た し ま し た 業 績 予 想 を 下 記 の と お り 修 正 い た し ま す 。

1. 平成 19 年 3 月 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 等

(1) 中 間 期 (平 成 18 年 4 月 1 日 ~ 平 成 18 年 9 月 30 日)

(単 位 : 百 万 円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	26,800	1,000	545
今 回 修 正 (B)	27,700	1,280	745
増 減 額 (B - A)	900	280	200
増 減 率	3.4%	28.0%	36.7%

(2) 修 正 理 由

当 中 間 期 は 引 き 続 き 回 復 基 調 に あ る 日 本 経 済 の 環 境 下 で 需 給 に タ イ ト 感 が 強 ま っ て い る 中 、 ス テ ン レ ス の 主 要 な 原 材 料 と な る ニ ッ ケ ル は 記 録 的 な 高 値 で 推 移 し 、 各 メ ー カ ー は 大 幅 な 値 上 げ を 次 々 と 実 施 し ま し た 。 一 方 、 当 社 は 底 堅 い 需 要 を 背 景 に 顧 客 の 理 解 を 得 な が ら 粘 り 強 く 価 格 改 定 交 渉 に 努 力 し た 結 果 、 着 実 に 販 売 価 格 へ の 転 嫁 が 進 捗 し 、 取 扱 数 量 も 増 加 し ま し た 。 関 係 会 社 に お い て も 種 ま き の 成 果 が 現 れ 始 め た エ ン ジ ニ ア リ ン グ 事 業 に 改 善 が 見 ら れ る な ど 収 益 環 境 が 好 転 し た た め 、 中 間 期 の 連 結 売 上 高 予 想 は 27,700 百 万 円 (前 回 予 想 比 3.4% 増 、 前 年 同 期 比 16.6% 増) 、 経 常 利 益 予 想 に つ き ま し て は 、 1,280 百 万 円 (前 回 予 想 比 28.0% 増 、 前 年 同 期 比 52.7% 増) 、 中 間 純 利 益 予 想 に つ き ま し て は 、 745 百 万 円 (前 回 予 想 比 36.7% 増 、 前 年 同 期 比 68.2% 増) と 修 正 す る こ と に し ま し た 。

(3) 通期 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	61,100	2,200	1,200
今回修正 (B)	59,700	2,600	1,250
増減額 (B-A)	△1,400	400	50
増減率	△2.3%	18.2%	4.2%

(4) 修正理由

今年度下半期の日本経済は引き続き順調に推移するものと思われませんが、ニッケル高の影響で大幅な値上となった製品の本格的入荷と旧価格で手当てされていた在庫の減少とあいまって在庫平均価格の急激な上昇が今後避けられません。一方、設備投資を中心とした需要は旺盛であるため、引き続き顧客の理解を得ながら価格転嫁に努力し、収益の確保・改善を図ります。

下半期に子会社化すると予定していた株式会社西鋼の株式譲渡契約を取り止めたことにより、売上高で 4,300 百万円、経常利益で 180 百万円、当期純利益で 70 百万円の減少要因はあるものの、中間期に好業績が見込まれること、下半期に景気が急激に失速することはなかろうとの期待から、平成 19 年 3 月期の連結業績予想を売上高につきましては、59,700 百万円 (前回予想比 2.3%減、前年同期比 17.4%増)、経常利益につきましては、2,600 百万円 (前回予想比 18.2%増、前年同期比 57.2%増)、当期純利益につきましては、1,250 百万円 (前回予想比 4.2%増、前年同期比 43.7%増) と修正することにしました。

(5) ご参考：前期の実績 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期 (17/4～17/9)	23,753	838	443
通期 (17/4～18/3)	50,858	1,654	870

2. 平成 19 年 3 月期個別業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	25,600	950	580
今回修正 (B)	26,700	1,230	740
増減額 (B-A)	1,100	280	160
増減率	4.3%	29.5%	27.6%

(2) 修正理由

中間期の連結業績予想の修正理由に述べた通り、当中間期の個別業績予想はニッケルの高騰によるメーカーからの値上げ攻勢はあったものの、企業間での設備投資や間接輸出入の需要に支えられ、取扱数量も増加し価格転嫁も比較的スムーズに実現できたため、個別売上高予想を 26,700 百万円 (前回予想比 4.3%増、前年同期比 17.4%増)、経常利益予想を 1,230 百万円 (前回予想比 29.5%増、前年同期比 39.1%増)、中間純利益予想につきましては、740 百万円 (前回予想比 27.6%増、前年同期比 34.8%増) と修正することにしました。

(3) 通期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	54,200	1,850	1,150
今回修正（B）	57,300	2,450	1,250
増減額（B－A）	3,100	600	100
増減率	5.7%	32.4%	8.7%

(4) 修正の理由

個別の状況も概ね通期の連結業績予想の修正理由で述べた通りですが、下半期の急激な市況の悪化は考えられないとの期待と上半期の好業績予想から、平成19年3月期の個別業績予想を売上高につきましては、57,300百万円（前回予想比5.7%増、前年同期比18.2%増）、経常利益につきましては、2,450百万円（前回予想比32.4%増、前年同期比53.5%増）、当期純利益につきましては、1,250百万円（前回予想比8.7%増、前年同期比30.9%増）と修正することにしました。

(5) ご参考：前期の実績（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期（17/4～17/9）	22,747	884	549
通期（17/4～18/3）	48,481	1,596	955

以上